

# アフリカ平和再建委員会

(Africa Reconciliation Committee : ARC JAPAN)

2009 年度事業報告書

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

## 今あらためて――なぜ「アフリカ」の「平和」なのか？

ARC は、1994 年のルワンダ大虐殺を発端に、NGO、研究者、学生、元・青年海外協力隊員といった市民が設立した組織である。その当時は虐殺に端を発する大量の難民への支援が「ルワンダ問題」として取り扱われていた。しかし ARC は、対症療法的な支援でなく、現地の市民社会との協力関係による復興と和解のためのプロジェクト作りを行ってきた。それは同時に彼らとの協働を通じ、いかにして国内で人々が動員され、国家による暴力が準備され実行されていくかを学び、私たち日本人が脆弱な平和というものを見つめなおす契機でもあった。

そして 2001 年の「9.11 同時多発テロ」以来、激変する世界の中で、アフリカの平和とは私たちとの平和と安全とも深く関わるようになった。なぜならばアフリカの貧困、紛争による無秩序は、国際テロ組織が活動拠点にしやすく、武器や天然資源の非合法取引やマネーロンダリングを可能にし、国際テロの温床となっているからである。現在のいわゆる「対テロ戦争」は、いわば暴力に対して暴力で抑え込むものにすぎない。ARC は、アフリカの平和再建を通じてグローバル・テロリズムの根本原因 (Root Causes) の解決に迫り、誰もが共存できる世界を目指していきたい。

## 1. 海外事業

### (1) ルワンダにおける事業――虐殺後の国民和解促進支援

#### a) 戦争寡婦・帰還難民の社会再定住のための就業支援 (洋裁技術・バナナ工芸製作技術)

##### プロジェクトの主旨

1994 年の内戦の後、働き手として、また世帯主としての女性の収入創出は緊急課題となっている。足踏みミシンで、自宅やアトリエで行う仕立て業は、ルワンダでも一般的な仕事である。ドレスや学生服の受注による所得向上は、内戦後のルワンダの女性の自立に貢献するものである。同じような理由で、比較的短期で習得でき、設備投資も必要とせず、また、バナナ収穫後のバナナ樹皮という廃品利用で環境にも良いバナナ工芸品製作技術を通じて、生計補助のための機会提供としていくものである。

ARC は 2000 年以来、職業訓練活動を行ってきた。今後は、その技術を実際に生かして、生計を立てていく支援が必要とされている。

##### 現地の状況

訓練活動自体はカウンターパートである現地 NGO の ARTCF が引き続き行っている。しかしながら指導員の給与、訓練資材、訓練所家賃などの面で資金的な援助が必要となっている。

### 今年度の実施経過

具体的な支援は実施できなかったが、2009年9月に増古剛久運営委員が参加する研究プロジェクトの関係で、同氏が現地を訪問し、ARTCFに協力を依頼した。同団体の活動地であるBicumbi郡での予備調査を実施することができた

### b) 子ども支援（戦災孤児、エイズ孤児、子どもだけの世帯、ストリートチルドレン）

#### プロジェクトの主旨

ARCは、「ルワンダ奨学基金」を設けて、孤児の就学支援を行ってきた。しかしこの取り組みを通じて、子ども達の置かれている状況の複雑さに直面した。日常の衣食住をはじめ、子どもだけの世帯における仕事や家事・育児の負担、児童売買春の犠牲、ストリートチルドレンにならざるを得ない生活状況などである。教育機会だけではなかなか改善されないこれらの問題に対し、「ルワンダ奨学基金」を、発展的に「ルワンダ子ども支援基金」と改称し、戦争の犠牲になった子ども達のさまざまな問題に対して、活用をしていくこととした。

#### 今年度の実施経過

奨学支援を、孤児院ギシンバ・メモリアル・センターの孤児に対して行ってきた。早稲田大学の実習科目「平和構築実習」につき、同大の客員講師を務める小峯茂嗣事務局長が学生8名の引率指導を行った際に、訪問を行い、学生により受益者への聞き取り調査を行った。

### (2) 児童兵士問題——ストップ子ども兵士アクション

現代紛争の象徴的存在——「子ども兵士」。この問題に向けて、「関心喚起」、「提言」、「直接支援」の3側面から、以下のような活動を行っていく。

#### a) 子ども兵士問題の日本における理解促進

##### 方針

- ・ 国際キャンペーン—他のNGO・学術機関と協力のもと、子ども兵士問題への理解を促すため、セミナー、ホームページ、写真展などを通じ、子ども兵士の日本国内での関心喚起・理解促進を行っていく。
- ・ 講演活動
- ・ 子ども兵士問題理解促進のブックレット、キャンペーンリーフレット発行

#### 今年度の実施経過

今年度も、「関心喚起活動」の一環として、映画「見えない子どもたち（Invisible Children）」の自主上映拡大運動のチームを立ち上げることが出来た。9月のARC主催上映会を皮切りに、自主上映会開催を促す広報を行い、日本の各地での上映運動が広がった。また全国縦断上映会運動の助成が決定した。

#### b) 国際社会への提言

##### 方針

- ・ 国際会議への提言を行うために、話し合いをしていく。

### 実施経過

今年度については、効果的に取り組むことは出来なかった。a)による支持基盤の拡大が望まれる。

### c) 現地での子ども兵士支援活動への協力

#### 方針

- ・ ウガンダ、シェラレオネ等の子ども兵士の社会復帰を支援している現地の活動への協力をすすめる。

### 実施経過

2007年10月にウガンダ・グルに岡原功輔を派遣したのちのフォローアップがまだ出来ていない。ボランティアチームの中で、同地域の紛争問題をテーマとしている大学院生が次年度に現地調査を行う際に、状況調査を行っていくことを検討する。

## 2. 国内事業

### (1) 資金源獲得

- a) 会員拡大による会費増収
- b) 無指定寄付

団体のブランド戦略を受け、リーフレットを若干改定。クリック募金の運営団体に登録を行った。

- c) 指定寄付
- d) 物販売上

5月のアフリカン・フェスタ 2008に出展し、物品販売を行った。

- e) 助成金

(財)日本国際協力システム(JICS)から、組織基盤強化の助成金を得た。今年度使用した(上述)。

### (2) 団体周知

- a) イベント参加により、知名度を上げ、参加、入会を促す取り組み。

5月の「アフリカン・フェスタ 2009」に出展した。

- b) パネル展示等の活動の周知活動。

ストップ子ども兵士アクションの関連で、「見えない子どもたち」自主上映会会場などで展示。

- c) 各地で活動報告会・講演活動を行う。

主に、映画「見えない子どもたち」自主上映会の開催に際し、小峯事務局長が招聘講師として講演を行った。またウガンダ紛争のドキュメンタリー映画「ウォー・ダンス」上映会場でのトークライブでもトークゲストとして小峯事務局長が出席した。

### 3. 収支報告(2009年4月1日～2010年3月31日)

#### アフリカ平和再建委員会 2009年度収支決算書

収入の部		支出の部	
ルワンダ女性支援		ルワンダ女性支援	
助成金	0	ルワンダ女性支援	0
寄付金	50,000		
ルワンダ子ども支援		ルワンダ子ども支援	
助成金	0	ルワンダ子ども支援	367,885
寄付金	136,000		
子ども兵士事業		子ども兵士事業	
助成金	0	子ども兵士事業現地活動	0
寄付金	48,587	子ども兵士事業政策提言	0
		子ども兵士事業関心喚起	8,750
国内活動助成金	0	国内事業	3,000
会費		人件費	0
個人	135,000	賃借料	360,000
団体	50,000	通信費	126,938
無指定寄付	143,681	広報費	17,955
事業収入		文房具	7,762
販売収入	194,390	記録費	0
講座収入	51,250	機材費	0
受託事業	0	交通費	4,320
利息	530	物販関係	31,366
		雑費	6,120
前年度繰り越し	766,715		
合計	1,576,153	合計	934,096
		翌年度繰越金	642,057